

経営課題

経営情報の集約と適正利益の確保



課題解決策

拠点毎の処理をやめ、一括管理化



ITによる課題解決策

基幹システムの統一とグループウェアの活用



代表取締役 西能徹社長



## 【目指すは、オーケストラ企業】

お客様は、スーパーゼネコンから個人の方まで

富山県南砺市に本店と工場。その他に富山市と石川県金沢市を拠点として事業展開しています。

内装仕上工事を中心に注文住宅・リフォーム工事、土木資材製造販売、建築資材販売施工、コンクリート工場と、これらの融合でハーモニーを成す企業体を構築中です。

代表者：西能 徹

本社所在地：富山県南砺市苗島  
4785

売上高：45億7千万円

従業員：57名

創業：1952年

URL: <http://www.daiichikoeki.com/>

## 待ったなし！確実に利益を出す仕組みづくりが急務

## 社長の困りごと・想い

- 1.拠点毎に業務内容が違い、それぞれ別々の仕事のやり方、会計処理を行っている。
- 2.建設業特有の未成工事の処理などが入り組み、利益状態が不透明。
- 3.それらの理由により月次決算に時間を要し、資金繰りが常に後手。
- 4.建設工事の縮小。売上が減少。
- 5.不透明な固定費が多い。

## こうして解決した

- 1.企業改革のチャンスと位置づけ、積極的に新しい仕組みづくりに挑戦した。
- 2.システムの開発以前に必要なこと、やりたいことをすべて洗い出した。
- 3.ベンダーに当社が実現したいことを細かく説明し、システムに求めることを徹底的に理解してもらった。
- 4.基幹システムとグループウェアを組合せ、自由に求めるデータが加工、提供されるようにした。
- 5.ITシステムと連動するように人間の仕事のやり方を変えた。

## きっかけは？

- 1.取引先大手ゼネコンの倒産による多額の未回収債権が発生した。
- 2.それによる風評で協力会社との取引条件が悪化。
- 3.個別物件毎の利益把握と経営数値の把握スピードアップが急務となった。
- 4.金融機関の勧めで社長が参加した経営者研修会で戦略が正しいこと確認し、更にITコーディネータの手法が有効であると気づき、改革の第二弾を推進。

## 社長の一言

- ・粗利率を上げることに社員の意識が統一され、一人一人が利益貢献を考えた仕事をしてくれている。
- ・当たり前のことをやってきただけのつもりだが、IT経営実践企業に認定され、更に自信がついた。

経営者の気づき  
フェーズ事例経営戦略  
フェーズ事例IT戦略策定  
フェーズ事例IT資源調達  
フェーズ事例IT導入  
フェーズ事例ITサービス活用  
フェーズ事例

## こうして経営課題を解決した

### ITと人間が一体化する仕組みづくりで、社員に利益意識を徹底

拠点ごとにバラバラな手続き、処理をしていた受発注業務、会計業務をIP網で結んだ一つの基幹システムに統一した。基幹システムのデータは、EXCELで加工し、グループウェアに提供することで全社員が共有できるようにした。同時に、業務の流れをシステムに沿って人間の仕事のやり方を変えた。これにより、瞬時に経営判断ができるようになった。

また、従来の売上重視の姿勢を改め、粗利重視にし、システム上のみならず会議の進め方などアナログな部分まで統一した考え方のもと業務の進め方を再構築したことにより、社員に利益意識が徹底できた。

#### 課題解決のポイント

##### ◆トップダウンで仕組みづくり

- 1.当社もご多分に漏れず変革の嫌いな人間の集まりであった。そのため、改革はトップダウンで仕事のやり方を変えた。
- 2.粗利への意識付けのため、常に粗利が売上より先になるように統一した。各種書式、システムの画面、会議の報告など、すべて粗利額、売上額、粗利率に並べた。
- 3.幹部会議も、グループウェア上のデータで行うため、各部門の月次決算も遅れない。

##### ◆ITは、人間の変革をサポート

- 1.人間とITの役割分担が明確になっている。
- 2.人間の仕事のやり方を変えることで改革をし、ITは揺らぎがないので、それをサポートすることで仕組みが出来上がった。
- 3.ITは、プロセスの標準化に貢献。省力化や楽をする為の導入ではなかった。

##### ◆更に利益を作れる体制に

PDCAサイクルが確実に循環すれば、更に利益が生み出せる。社内だけでは推進できないこともあり、経営者研修会で出会ったITコーディネータの支援を受け、取り組み中。社員の手による改革プロジェクトが成果を出しつつある。

#### IT活用成功のポイント

- 1.システムの開発前に目的を明確にし、実現方法をベンダーと協議してから開発に入ったので、ベンダーとの間にズレがなかった。
- 2.稼働後の自由度を高めるため、基幹システムのデータをEXCELで加工してグループウェアに提供する仕組みにした。
- 3.会議案内や会議資料の提出などは、すべてグループウェアで行うので、必然的に(PCを)「使えない」は許されない仕組みとなった。

#### 活用した公的施策や表彰等

- ・IT経営応援隊 経営者研修会
- ・2008年IT経営実践企業認定

サポーター紹介



#### ■ 梶野 達也

ITコーディネータ  
認定番号:0037972004C  
I. S. K有限会社  
E-mail [kajino@isk-web.jp](mailto:kajino@isk-web.jp)

#### <キャッチフレーズ>

- ・社員のモチベーションupとなる褒賞制度構築が得意です。
- ・根気よく気づきへ導くことを心がけています。